

復興への取組み

生産法人の設立 ～（株）宮城リスタ大川～

石巻市大川地区は、人口約2千5百人で主な産業は農業でした。しかし、震災の影響で人口が約半分に減ってしまいました。ここに残った農家のみなさんが、大川の地を守るために、平成25年5月に法人として立ち上がりました。

株式会社宮城リスタ大川

会社の名前は、震災前の農業が盛んで自然豊かな美しい故郷を取り戻したい。「リスタートする」という意味を込めて若手社員の発案で名づけられました。

法人の代表である大槻幹夫さんと大槻稲夫さん・一平さん親子に話を伺いました。

■法人設立のきっかけ

幹夫さん 「とにかく全部の農地に植えて」というのが（稲夫さんと）2人の話だった。植えるためには機械が必要ということで法人化という話になった。

稲夫さん 5月に法人を設立しても何もやることはないんだけど、早めに手を挙げることで、大川地区へのアピールというか、地元への「お前たちもここを出ないで頑張れや」というような気持ちもあって早めに（法人を）設立した。

■雇用の創出

地域の雇用を増やすため、平成26年春にキクの通年出荷を目標に約3千坪の園芸施設が建設され、平成26年夏からキクの本格出荷が始まっています。

幹夫さん

税金を使った設備を貸してもらったから、やっぱり何かで恩返しをしなければならぬ。何で返すかといえば雇用。地域還元ですよね。それがこの会社の任務だと思ってる。震災でこの人口が半分以上になった。農業をやる人も半分になった。結局、残ったのが年寄りばかりなので、この農業を続けていくには、若い人たちに繋いでもらわなければならぬ。だからこのグループに若い人が入るのは絶対条件なわけだよね。そうでないと続いていけない。

現在、若手社員のリーダー的存在の一平さんは、そんな父親達の思いに答えるために大きな夢を描いています。

一平さん

キクの栽培で3千坪っていうのは、南の方と比べると少ない方なんです。愛知や九州だと、6千坪、9千坪くらいでっかくやっている所が多いので、それに負けないような（規模にしたい）。そこ

まで考えればまだ先の話だけど、まずは建てたハウス（でのキクの栽培）を滞りなく回せればいいなと思う。

最後に3人はとにかく仲良く、老いも若きも力を合わせて、目標に向かってやっていきたい。と意気込みを語ってくれました。

（株）宮城リスタ大川は平成26年5月に復旧した大川地区針岡工区の農地約80ヘクタールで、初めての田植えを行いました。今後は、長面工区の約130ヘクタールと合わせて約210ヘクタールで水稻の作付けを行う計画です。



左から、大槻稲夫さん、大槻幹夫さん、大槻一平さん

法人名 株式会社宮城リスタ大川
設立年月日 平成25年5月23日
構成員 役員3名 常時雇用6名程度
経営規模(計画)
水稻 212ha 施設園芸(キク) 97a



トラクターの導入(H25.10)



キクの栽培



初めての田植え(H26.5)